

あさひ free paper 村

vol.1
 発行：社会福祉法人孝楽会
 編集長：相沢 悦子
 編集員：市川 真弓
 // 林 和美
 // 福田 直子
 写真：小笠原浩美
 編集アドバイザー：児玉正章
 2015
 10月15日発行

あかぬまちいき かっせいか
赤沼地域を活性化
「ちろりん村」構想



子ども達の勉強を手伝う
 (仮称・赤沼松下村塾)併設



新 たな試みとして福祉の「赤沼ちろりん村」の立ち上げを計画しております。施設に隣接する田畑で作物を作ったり、キャンプ場やライブ会場、野外映画を楽しむテラスや小屋(仮称・赤沼松下村塾)を作りまします。高齢者、障害者、子ども達とともに過ごす場が失われつつある赤沼地域のコミュニティ再生をめざす、一大プロジェクトです。福祉という言葉の原点は国家によって国民に等しく保障されるべき安定した生活および社会環境です。

たとえば「インディアン」の思想にまなぶ「こころ」のことがありまします。

- 1 7世代先の子孫のことを思い、今なすべきことを考える。
- 2 子供とお年寄りにはなしてはいけない。それはみらいを切り離すのと同じです。
- 3 子供は村(コミュニティ)全体で育てる。

これは現在社会でわすれられた、日本の古き良き習慣をほうふつさせることではないでしょうか。

私たちがいっしょに地域を活性化する活動に参加してみませんか。

今年のテーマはハワイアン

孝楽祭

11月8日(日)
11時~15時

フラダンス&ハワイアンバンド来園。サロンがハワイアンカフェに仮変身。パンケーキ、ドリンク、ロールケーキで南国気分。

模擬店
 フライドポテト、焼きそば、ハワイ焼き、もちこちキン、フランクフルト、パン屋、赤沼「筒屋」さん。魚釣りゲームや輪投げもあります。毎年恒例の大抽選会。ご参加を孝楽園でお待ちしております。

孝楽会ではこの度地域新聞を発行させて頂く事にしました。地域に密着した情報をお届けして参ります。



それが私の夢です。
 現在の介護の現場は女性中心の職場です。女性が無理なく働ける体制を整えました。職員には子を背負って働くことを奨励しています。

ますます重要度を増しています。福祉の仕事に携わる事は私にとって「天命」。20~30年後、当施設で計画している「ちろりん村」で育った子ども達が社会に出た時多様性を認め、弱い立場の人々に分け隔てなく接する事のできる人材に育てたい。

…藤田理事長の足跡…
 北海道帯広生まれ。父親の転勤に伴い、釧路を経て高校1年生の時に札幌へ。中学、高校時代は音楽に没頭し、卒業後はミュージシャンとして活躍する。30歳で音楽の道から建設業界へと転身し、会社勤めを経て35歳で独立。法人化から20年間経営を続けて後進に会社を譲り、2011年に「孝楽会」を引き継ぐべく理事長に就任する。

社会的弱者に「援護・育生・更正」をするのが「社会福祉法人」です。

世の中は目に見える事は、かなり全てではありません。一見無駄だと思える事に、先人達の長年にわたる試行錯誤の蓄積によって必要とされるものがたくさんあります。日常に節目をつけ、目には見えない「気」を充実させて生きていきたいですね。

初めての広報紙作り、何から始めれば良いのか、全くの手探り状態でした。地域の皆様に何を伝え、そして喜んで頂けるかと試行錯誤の末、やっと一号の発行となりました。

二号、三号と紙面もスタッフもステップし、充実した紙面となるように努力してまいります。

オレンジカフェ

オレンジカフェ(認知症カフェ)は、認知症の方やご家族、地域の方など誰でも参加出来る集いの場です。外部の先生による講座も実施します。楽しく介護予防体操をしましょう。お気軽にご参加ください。

日時：10月14日・11月11日・12月9日 時間：10時~12時

あかぬまちくのちんじゅさま
鎮守様
赤沼神社

香取神社という名前の神社は「香取」を社名に持ち経津主神を祭神とする神社。関東地方を中心として全国に約400社あり、千葉県香取市の香取神宮を総本社とする。多くは香取神宮から勧請して創建され神宮と同じ経津主神を祀っている。主に利根川・江戸川沿いには久伊豆神社が分布し、その分布圏は境界を侵すことなくわかれてい



ことが西角井正慶により指摘されている。香取神社の分布圏は10世紀以降に開拓された、元は低湿地だった土地である。家内安全、産業(農業、商工業)指導の神、海上守護、必願成就、縁結び、安産の神として信仰されている。
 武徳(平和、外交の祖神) 勝運、交通安全、災難除け

さくらだ先生のしょうかい

春日部市生まれ、春日部育ち、大学生の長男と高校生の長女を持つ2児の母です。保育歴15年。



今までの保育経験と子育て経験を何か違った形で生かしたい!と想っていた時、孝楽園と出会いました。施設内の保育所では、利用者様と触れ合い、一緒に過ごす中で思いやりのある優しい心が育っています。またお散歩中には地域の方が気さくに声をかけてくださり、子供たちも喜んでます。笑顔のあふれるちろりん村保育所では、人との出会いを大切に、地域貢献を目指していきたいと思ひます。



核家族が進み、人と人とのつながりや、人間関係がうすれてきているようです。胸を痛める事件もあとを絶ちません。ひと言声をかけていけば避けられることもあったはず。そのためにも、日ごろから地域の



つながりを深めていきたいものです。特に小さな子供たちには、手を離して目を離さずということと心がけていきたいですね。地域の中で絆を深め、子供たちを見守り育てていきたいと思います。



お母さんが安心して働ける環境を誕生した保育所です。現在0〜5歳までの子供たちが、おししいちゃんやおはあちゃん

に抱っこされながら、楽しく過ごしています。地域地産をモットーとしている孝楽園では地域の皆様と

子育ては地域で見守って育てましよう。

積極的にかかわっていききたいの思いから、保育所の立ち上げを実現しました。三世代交流を感じて頂きたいと思ひます。なかなか我が子と離れるのが心配なお母様も多いでしょう。それが仕事のためと割り切っても一歩を踏み出すのは大変!

でもちょっと見方を変えてみたら? お迎えの時、我が子の笑顔思い浮かべてください。最高の時を味わってみませんか? 子供たちがお散歩に出かけるとたくさん声をかけていただきます。そんな人のかかわりが子供の心の土台となり、そして思いやりの心をはぐくむ力になると感じます。

地域・自然の中で子どもは成長します。

自然の中での遊びや地域行事への参加等勉強以外に様々な体験活動をしている子ども程、コミュニケーションの力やマナー、課題解決力等の「生活スキル(技能力)」が高い傾向にあります。(国立青少年教育振興機構調べ)子ども達からお年寄りまでがかかわって生きていける、そんな町作りをここ赤沼で作っていききたいですね。



♡ すまきなえがありがとう♡

